(日刊) 月曜及祭日の翌日休刊

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年
本紙定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金五十錢▲六ヶ月前金▲郵税一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行▲五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久伸一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

哈爾賓通信

△露國國會議員 露國國會議員某はハルビン市に於て日本人會を催し國民議會各派の議員を招待したるに話題の主として話頭に上りたるは日露關係に關する通信あり即ち

△露國商業上の有力なる某にして露國より歸りて同市の有力なるロマンスの中心點となりしが氏は能く日露の關係に就て語りしが氏曰く目下何等かの關係を缺へるは不可能なり日本の經營の進捗と正確なる日本人は日露兩國間の事業を爲さんと欲し今や哈本までは經營を手に入れたるのみならず其の機能したる斷定らに多きを以て之を知るべきと、某々代議士は新聞に...

(上部破損)

に關し言表紙
會を發するに
ならでは能
府は日露協
發表する
決するて
又代議士
神の操つ

日銀利下と韓國

昨紙東京電報の示す如く十一日より日本銀行に於て二厘方の利子引下げを行ひ東京市内の五大銀行及び其の他の銀行も夫れ〳〵利子引下げを斷行するに至りたるは取りも直さず金融緩漫にして資金固定し預金の激增したるに基くものであるから銀行家は金融の圓滿を計るためにかくの如く利子引下げを斷行したのであるこれに就いて本邦が漸く資金が餘まり居る程なれば今差しあたり半島市場に影響する如きは無からんもこゝ五六箇月經過する時は或るは本邦剩金の資金にして半島に入込むやも知れずさある時は一昨年以來金融緩漫と資金固定とにより手控りたるに漸く今に至りて幾分資金流通する樣なる半島經濟界は本邦資金入込みと共に復々緩漫を示すに至るべし

半島保護と議會

(上部破損)府の半島保護に要する費用は非常に增加を來せるが衆議院は從來伊藤公の關係より一切之れに對して議論を避け內閣も亦全く思慮を加ふる事なくして經過したる實情なるに會顧統監は此の經費に滿足せず此の增額を要求し韓國經營の進步せざるは經費の不足に基くものなりと思惟し今回の議會も此の點に就て內閣と交渉する希望なりと述べたりと左なきだに會期豫算に對して兎角の評判ある伊藤公の態度を以て政府及び議會に對するは如何なるものなりやの非難あり政友會の如きも今年は半島保護費に關し精密なる調査を行ひ行政監督の實を擧ぐる筈なりと

郵便物の差出方
（矢野業務課長談）

新年の郵便事務視察の爲め余が京城郵便局及其他の各局に於て實見せし結果一般公衆の注意を喚起したき點少なからず今其數點を揭ぐれば左の如し

△未納郵便物多し 目出度新年に當りて未納の年賀郵便物を受くるは受信者に於て甚だ迷惑なるのみならず郵便局に於ても亦手數砂なからず發信者に於ても不本意のことなるべし是れ年賀郵便物を多數に年末に押し詰まり差出すが爲めなるべければ宜しく十二月中旬頃に於て特別年賀郵便とし差出し置くを良策とす然らば斯る間違も自から避け得べし

△受信人の宿所氏名の不明瞭のもの少なからず 調査郵便物中には單に(韓國何某)とか(京城何某)とか記せる年賀狀少なからず斯る郵便物は取調に困難なるのみならず或は配達不能となることあり宿所氏名は可成詳細明瞭ならんことを望む

△差出人の宿所なき郵便物も亦多し 受信人の居所不明の場合に於ては郵便物は之を差出人に還付を要す斯る場合に差出人の宿所なきが爲め還付不能となることあり差出人に於ては既に右郵便物は配達となりしものと思へるに事實は還付不能のこととなしとせず此點も一般に注意せられたきものなり

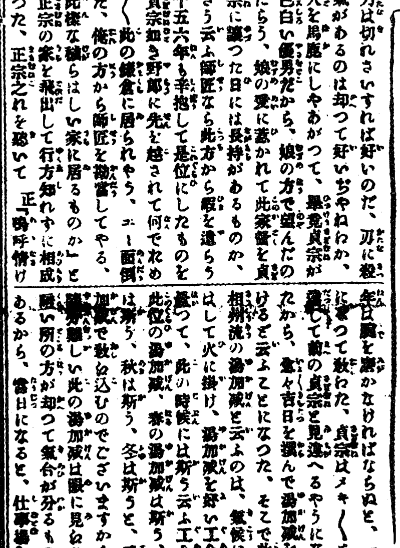
△文字を明瞭に記載せられたし 文字の不明瞭なるが爲め郵便物の配達間違易き文字の例を擧ぐれば 樋田と杉田、土田と上田、矢野天野、松木と松本、二上と三上、山田と山內、木村と森(木村を續けて書けば森に似たる字となる)大島と大鳥、中野と小野、入木田と米田 要するに明瞭に書きさへすれば間違なきを餘りに達筆に(又は亂筆に)記載せるが爲め郵便局に於て頗る迷惑し延ひては發信人自身も亦不利益を蒙る場合なしとせず

△年賀郵便物の差出人は受信人の居所に注意せられたし 年賀郵便を多數に差出す人は之を書生等に放任せるもの少なからざるものと見へ一見すれば京城に居らざること明かなる知名の人(例へば加藤增雄氏村田淳氏等)へ差出せるもの少なからず斯る郵便物は郵便局に於て手數を要するのみならず遲延の恐れあるものなれば此點も亦一般の注意を望む

以上の外一般の注意を希望したき點少なからざるも右諸點の如きに取り分け自他共に利益となるものなれば特に注意せられんことを望むなり云々

日本銘刀傳
第十八席 邑井一 講演

貞正宗門村正はまだなか〳〵…げぬ「何だ、喜様な事を云つたので



刀は切れさいすれば好いのだ、刃に殺氣があるのは却つて好いぢやねわか、人を馬鹿にしやあがつて、畢竟貞宗が色白い優男だから、娘の方で望んだのだらう、娘の愛に惹かれて此家督を貞宗に譲つた日には長持があるものか、さう云ふ師匠なら此方から暇を遣らう、十五六年も辛抱して是位にしたものを貞宗如き野郎に先を越されて何でれめ〳〵此の鎌倉に居られやう、ヱー面倒だ、俺の方から師匠を勘當してやる、此樣な穢らはしい家に居るものか」と正宗の家を飛出して行方知れずに相成つた、正宗之れを聴いて 正「嗚呼情けない最前の奴だ、十一歳の白雲頭の小僧の時分から、態々伊勢より連歸り、まア あれ丈けに出來るやうに成つたのも誰のお庇蔭だ、師匠の異見をも用ゐず自己の我に募り、態くも逐電などを致したな、彼奴は生涯物には成るまい、困つたものだ」と嘆息をした、團九郎政近は闘々しい男だから、團「喜左衛門は馬鹿な奴だ、彼樣に怒つて飛出した所が仕方がない、美女は俤つぽい娘だから、たかねさんが貞宗に傾いた時分に、俺が据つてやらう、湯加減なんぞ俺が旨く盗んでやる」と平氣で居る、さて正宗は貞宗を養子となし相州の湯加減を傳授するには、まだ三四年日限を掛かなければならぬと、一心に教ねた、貞宗はメキ〳〵と上達して前の貞宗と見違へるやうになつたから、愈々吉日を撰んで湯加減を授けると云ふことになつた、そこで此の相州流の湯加減と云ふのは、氣候に合はして火に掛け、湯加減を好い工合に盛つて、此の時候には斯う云ふ工合、此位の湯加減、春の湯加減は斯う、夏は斯う、秋は斯う、冬は斯うと、手の加減で數ね込むのでございますから、隨分難しい此の湯加減は眼に見ねない聽い所の方が却つて氣合が分るものであるから、當日になると、仕事場を隔にして四季の湯風呂を立て、正宗は貞宗の手を引いて連來り 正「オ、貞宗此の相模は一体水が悪るい所ゆゑ、我れが多年此工夫を致したものである、能く心に留め置けよ」と貞宗の手を取つて 正「是れが春の湯加減である、分つたか」貞「分りました」正「確と心に……」貞「ハイ」正「此れが夏……」貞「分りました」正「是れが秋……」貞「確と分りました」今冬の風呂へ手を入れますると湯が少し熱ねた 正「ハテナ」と風呂の縁をズッと撫でると、手が一つ餘計に這入つて居る、正宗は確と其手を押ね左の手で脇差抜くよと見る間にバラッと其手首を斬つて落した、曲者は「キャッ」と云ひながら窓口を押へて逃出した、此曲者は誰であるかと云ふに團九郎政近だ、團九郎は最前より這入つて居て、湯加減の傳授を盗みに來たのだ、春、夏、秋は已に先きへ手を入れたから知れなかつたが、冬の風呂は正宗、貞宗に後れて手を入れたので夫れだけ湯が熱ねたから、流石に名人の正宗だから直ぐと勘付いた、此時團九郎もいくら闘々しくも最早鎌倉に居ることは出來ないので欠落をした後に此の團九郎政近手を失つた儘、名刀を打ちました、世にデンボウ正宗と云ふは是れであります、そこで貞宗が師の跡を相續致し、たかねと夫婦となり、夫婦仲も非常に睦まじい、正宗も年六十を超ねましたので、隱居を致し、頭を圓めて實隱齋と號した、さて貞宗は一度も京へ上らねからとて貞宗を連れて京都へ參り貞宗の丹精を籠ため名刀を禁裏へ獻上した、大層に御賞美あつて正宗の跡を繼ぎ天子樣の御番匠と相成り相摸國の宗匠となつた、此貞宗(い)御話は後に又た詳しく申上げます

제308호　1910. 1. 14.

……滿鐵

道は不用と考へたのである、而して保守派は如何と云ふに新派が問題に對する考は大に説明を要する事情もあるが之は後段に詳述するとして兎にも角にも議會に於て開明派の考と符一致するに到つた、トコロで開明保守の兩派が一致する以上は之を彼等が考通りに何とか處分せねばならぬことゝなつた、種々考究の結果到達したのが乃ち彼等の**賣却説**であるのである、茲に於いてか露國は東淸鐵道の**買手**を捜し始めた、と云つて滅多な者に賣る譯には行かぬ、遂に見附出したのが米國の**ハアリマン**であるのである。

ハアリマンは人も知る如く米國の**鐵道王**だ、彼は小なる東淸枝線だけなら問題にせない、彼は都合に因つたら滿洲に於ける日露鐵道既設未設線の全部を引受けるの考を起した、彼もシイフと同じく事もなげに觀光と稱して日本へ來た、此成上りの鐵道王はシイフ同樣我　皇室の殊遇を受た、我元**老大臣**等は彼の滯京中日夜彼を取圍んで**鐵道經營**に關する**講釋**を聞いた、而て彼は東京を辭し……滿洲に渡り[illegible]

城新報

劇の開幕（三）

韓半島に及ぼす影響

【ニユーヨーク[illegible]】

滿鐵の視察を爲し同時に未設線に就ての研究をも爲した、彼れは歸米後一の**全滿鐵道經營案**を立てた、不幸にして彼は病歿せしため其經綸を行はずに仕舞つた、併し彼れ死しても彼れの立てた案は殘つた、米國が淸國に提議せるシンヂケート案の如きはハアリマン案にあるのだ、但しシンヂケートに英國を加へるとか或は全滿**中立**にするとか、斯んな政綱する事は素よりハアリマンの案に無いのだ。

東京電報

理事官と檢事任命

本日附を以て理事官、副理事官を統監府裁判所檢事に改め本日より施行する旨發布せられたり（同上）

一月上旬の貿易

一月上旬に於ける外國貿易は輸出七百二十六万三千四百圓輸入八百二十八萬千八百五十四圓差引輸入超過百一万八千四百四圓なり（同上）

▲**鐵道排雪機試驗**　日本鐵道の年々冬季積雪の被害を受け居るを以て鐵道院にては特許品中優秀と覺しき排雪機を用ひ來る二月上旬より積雪丈餘に達する越後高田、信州、長野の方面に於て其效力を試驗する事に決せり（同上）

▲**工場實況の調査**　農商務省にては五ケ年毎に全國各工場の實況を調査する事に決し第一回の調査を來る三月迄に終了する方針なり（同上）

▲**韓國謝罪使歸國**　韓國謝罪使の一行は十一日午前十時東洋協會に至り滯在中便宜を與へられたるを感謝し午後二時四十分新橋發にて退京したり（同上）

北京電報

▲**大隈伯爵に勳章**　北京　朝廷は大隈伯が淸國留學生養成、開國五十年史贈呈の功勞に對し双頭龍三等寶星章を贈るべく決すと（十三日）

雜報

滿洲に於ける韓米（二）

▲**在滿日本人增減**　三十七八年役後に於ける日本人の流入は一時非常の盛況を極めたりしが其反動として一時頗る不振に陷り殊に軍隊の引揚と共に在留日本人は著しく其數を減ずるに至りしと雖も今や既に其極度に達したる今の觀あり就ては今後日本人の滿州移住は從前の如く亂雜なる者にあらずして事る秩序正しき發展を見るに至るべし

▲**淸國人外米需要**　下等社會に於ては輸入米の價格高きが爲め是を常食に供する能はざるも上流社會にありては漸次需要增進の傾向を有せるが如し即ち奉天に於ける調査によれば同地に輸入さるゝ韓米の約一割弱は既に同上流人士により消費せられつゝあり然れ共此等は單に其一小部に過ぎずして多數下等民が高價なる輸入米を需用するに至らざるべきは想像するに難からず要するに淸人間に於ける韓米の需用額は今後著しく增加を見るは難かるべし

▲**滿洲の陸稻産額**　滿洲に於ける陸稻の産額は資料の徵すべきなく正確なる統計を上る能はずと雖ども近來奉天市場に於ける取引額は益增加の傾あり且陸稻の主なる集散地たる鐵嶺某商店に於ては一箇月約四百石を買收し得るものゝ如し而して在留日本人中の下等なる社會に於ても今や陸稻を食糧に供する者漸く多きを加へんとするの傾あり

▲**滿洲の粳米産額**　粳米に就きても陸稻同樣統計の徵すべきものに乏しく爲に正確なる産額を知る事能はざれども現今に於ては未だ蘇子河の流域興京附近及遼山城附近に於て僅少なる産出あるに過ぎざるが如し何ほ將來とても著しき增加を見に至らざるは言を俟たず要するに滿洲に於ける輸入米の需要は漸次增加の趨勢にありと雖ども其需要は主として在留日本人の間にあり且陸稻の産額漸次增加の傾向あるを以て一般外米の輸入は著しき增加を見ざるべしと雖ども單に韓米に就て觀る時は上叙韓米の價格品質等種々なる特點を具備せるが故に需要增加すべきは疑を容れず特に韓米に取りて最有望なるは滿州に於ける日本駐屯軍に於て韓米供給の議あるを是なり從來軍隊には戰役當時よりの殘米ありしと陸軍附屬精米所の設置ある等の關係により時々購買の必要なかりしも將來經濟的なる韓米を採用せんとする方針なるが如し若し是が實行の曉には一ケ年約一千八百石の韓米は滿洲に向て流入さるゝに至るべし

太皇帝と擊劍會

警視廳巡査は來る十五日午後一時より德壽宮內廣庭に於て擊劍大會を開き勇壯なる試合を爲し太皇帝の上覽に供する由目下準備中なりと

曾禰統監の消息

曾禰統監は去る十二日午後四時新橋發片瀨の別莊に赴きたりと云ふ

韓銀の總會期日

韓國銀行第一回株主總會は愈々來る二月十七日東京に於て開會する事に決定したり而して同總會には曾禰統監、荒井度支部長官及び理事一名出席する由なり

同志會と記者團

在東京朝鮮問題同志會より京城日本人新聞記者團に對し左の來狀ありたり

謹啓各位益々御精勵爲邦家大慶此事に御座候扨今回韓國の時局に關し弊會は有力なる貴團に對し篤と御協議申上度件有之茲に常任委員五百木良三、大谷誠夫を特派し貴團に交渉せしむる事と相成候に就ては不日右兩委員推參の節は可然御應接被下度豫め御依頼申上置候敬具

明治四十三年一月七日

朝鮮問題同志會委員（いろは順）

五百木良三、石山彌平、長谷川芳之助、大竹貫一、小川平吉、大原武慶、大谷誠夫、高橋秀臣、山田喜之助、山口熊野、福田和五郎、河野廣中、權藤震二、櫻井一久、櫻井熊太郎、三浦逸平、三輪信次郎、鹽谷恒太郎、望月龍太郎（以上常任委員）井上龜六、太田秀次郎、近江谷榮次、柏原文太郎、加瀬禧逸、中安信三郎、卜部喜太郎、上島長久、倉辻明義、[illegible]惟郎、工藤鐵男、藤村靜郎、淺田彥一、相馬鐵次郎、佐藤照、紫野珠城、白河次郎、森山守次（以上委員）

京城日本人新聞記者團御中

民團事件と當局者

民團事件に就ては統監府屬寺島利久氏同役所に日々出張して調査進行中なるが同氏の談によれば今回の檢査は定期檢査なるも恰かも稅金橫領事件檢擧せられたる爲め年度當初より執行せんと欲したる次第なり然るに數千頁の帳簿と數十萬に亘る告知書或は書類等に對し一々査閱を行ふものなれば一朝一夕に其完結を期する能はず目下檢査の功程は漸く總論の緒を開きたるのみにて是より各論に入り最後の結論を爲す迄には約二三週の日子を要すべし而して檢査の方針は必ずしも犯罪事件を標準とせず事實は完全に執行せられたるや又規定額に違法の事なきや或は又帳簿書類の形式に缺くる事なきや其他總ての法令に照らし一層綿密に調査の必要を認めたる爲め普通檢査とは自から其程度を異にせり其結果に非ざれば何事も明言する能はず又語り得るまでに進行し居らざるも要するに若し不正不法の事實に遭遇せば一歩も假借するなく相當手段を執らん筈なり且つ又法令制度等に改善の要あらば具申すべきのみ

新舊貨幣流通現狀

現今舊貨の市場に散布しつゝあるものは別項に記載したるが昨年より本年一月十一日までに中央金庫に引上たる舊白銅貨は三億八千五百九十一万四千五百二十九枚にして此價格八百四十七萬六千七百四十五圓二十七錢なり葉錢の引上たる分は十三億七千五百十七萬四千九百十四枚にして此價格二百七十二萬二千百六十圓八十三錢六厘なり猶は昨年葉錢の日本へ輸出せられたるものは百六十一万七千九百八十一圓あり而して新貨の現今市場に流通するものは△五十錢銀貨九九〇、一五〇圓△二十錢銀貨一、五三六、〇一〇圓△十錢銀貨一、〇〇四、八四〇圓△五錢白銅貨一二五、二〇〇圓△一錢靑銅貨二六三、八四〇圓△半錢七九、九六五圓計四、六〇〇、〇〇五圓なりと云ふ

輸出重要農産品目

最近の調査に係る輸出重要農産品目に付其の筋の調査せるもの左の如し

品種		數量	價額
米	玄米	八〇〇、〇〇三	二、四四六、四九九
	精米	六〇六、〇〇五	二、九三二、九七〇
	其他米	四九、二〇一	一二五、四〇一
大麥		三三、三五五	七六、七二五
小麥		四二、一九〇	一〇八、〇〇二
豆類	大豆	一、二六二、五六八	五、三二〇、四三二
	小豆	一五、九六六	四一、一九〇
	其他豆	三三、三三一	八二、四二〇
粟		一八、〇四四	四九、五八〇
黍		一七、二九一	三三、六三三
其他の穀物		…	八〇、一四一
荏子		七二、二五〇	三五、四三七
胡麻子		六四、八一〇	一六六、三九五
其他の種子		…	七、五三三
果實		…	三五、三二一
煙草	葉煙草	一六八斤	一七
	紙卷煙草 其他諸煙草	五四二千個	一一、五〇七
牛皮		一、九九九、〇〇六	五八、四二四
生牛		二四、六〇〇	七〇七、〇〇三
家禽類		…	二、二〇五
生綿		三、五二二	一八、二二五
綿		四、四六六	八六五、二六九

財務監督局長交迭

今般光州財務監督局の新設に伴ひ稅關長及財務監督局長に左の如く交迭することに內定し來る二十日頃を以て發表せらるゝ見込なり

任鎭南浦稅關長　平壤財務監督局長　矢野久三郎

任國稅局書記官　鎭南浦稅關長　有賀光豐

任平壤財務監督局長　全州財務監督局長　佐々木正太

任光州財務監督局長　元山財務監督局長　堀鎌

任元山財務監督局長　國稅局書記官　櫻井小一

任全州財務監督局長　財務監督局事務官　須藤素

舊白銅貨の流通高

韓國銀行國庫局の調査に依れば昨年十二月末日に於ける舊白銅貨の流通高は百七萬一千圓にして葉錢の流通高は二百二十八萬六千七百圓の豫想たるが通用禁止後市場に散布する舊白銅貨は不良品にして貨幣の形狀を存せざるもの多ければ其儘に放置するも自然市場より驅逐せらるべく而して葉錢は此上百万圓を引揚げ殘餘の分は流通せしむる方針なりと云ふ因に葉錢は目下每日平均一萬圓位引揚げつゝありと云ふ

巡査採用試驗成蹟

內部に於ける日人巡査採用試驗は十日筆記試驗十二日口述試驗を執行し其結果志願者三百名に對し八十餘人の合格者を出したりしが這回の試驗は高等程度とし採擇方法の如きも特に嚴重を愼重にしたり尙ほ其筋に於ては今度は固より今後に於ても學科の優秀を希望するは無論の事なるが採用は主として人格及び常識に重きを置く筈なりと

全國土地調査着手

韓國政府にては昨年六月より全國土地調査を行ふ筈なりしも都合に依り見合せ居たるが別項臨時財產整理局廢止後土地調査局を設立し愈々八箇年計畫を以て全國の土地測量を開始する由にて其經費は既報千四百万圓の豫定にして目下京平部に模範的調査を實行し居れるが地方人民の氣受け良好なりと

牛疫檢査所の成績

釜山に於ける輸出牛檢疫所は昨年八月より開始したるものなるが今其の成績を聞くに左の如し

	收容頭數	開放頭數	仕向地
八月	二八		
九月	二九九	一五二	下の關
十月	一一二	二二七	下の關、大分、福岡
十一月	一二一	一二八	下の關、大分、長崎、[illegible]
十二月	一七七	一六二	同　上
合計	七三七	六六九	

種苗場の增設計畫

從來農商工部の所管に係る種苗場は義州、海州、全州、光州、晉州、咸興及鏡城の七箇所なりしが本年度に於て新たに二箇所の種苗場を增設するの計畫あり目下準備中なるが本年度豫算は十二万八千圓を請求したるも削減の結果八万一千八百六十三圓となりたる由にて新設せらるべき場所は忠淸南北道也

地方行政諮問會議

內部に於ては昨十三日午後より岡次官を始め澤田地方局長平渡書記官其他地方行政に關係ある日本人高等官を召集し地方行政に關して岡次官より諮問する所ありたるが岡次官は昨紙所報の如く其の結果を齎らして愈々來る十六日上京のことに決定したりと云ふ

蠶業講習所の官制

在龍山の蠶業講習所は從來大韓婦人會の所屬なりしが本年度より農商工部の所管となり豫算一萬圓を計上したるが爲めに兩三日の內官制の發布あるべき筈にて所長、技師一人、技手專任二人書記專任一人を置く筈なりと云ふ

韓銀の新築落成期

目下南大門通りに新築中の韓國銀行々舍は工事意外に進捗し今年中に工事を竣成し明年十月迄に雜作を終り十一月に移轉する筈なりと尙同行舍移轉後は株主總會を京城に開く計畫なりと云ふ

財產整理局の廢止

度支部臨時財產整理局に於ては目下事業の報償調査中なるが多分本月中に終了する豫定にして此事務終了すれば財產整理局の事業は終了するを以て遲くも來月中には財產整理局を廢止する筈

天道教學校義捐金

天道教は京城に設立したる同教小學校教師養成を目的とする教育費に當る爲め平安北道定州管內六千餘名の信徒中より約四百六十圓の義捐金を募集せり

同志會特派員着京

朝鮮問題同志會特派員五百木良三、大谷誠夫の兩氏は昨十三日午後八時十分南大門驛着入京城ホテルに投宿せり

道書記官と警部長

別項所載岡次官は近々上京の筈なるが其れと同時に目下缺員中の道書記官一名と警察部長二名を傭聘する筈なりと

漢湖農工銀行總會

漢湖農工銀行は來廿三日午後一時より第六回總會を開き續て臨時總會を開催

內部大臣の招宴

內部大臣朴齊純氏は明十四日午後五時[illegible]樓に內部、漢城府、警視廳、大韓醫院の高等官五十三人を招きて新年宴を催す筈なりと

官報販賣の擴張

從來官報局に於て印刷したる官報は本年一月一日より印刷局にて印刷する事となり大漢門前に出張所を設け廣く販賣する筈なりと

光州新報の日刊

光州新報は從來週刊なりしが去る八日より日刊に改め日文と韓文隔日に發刊する事となれり

在韓外國宣教師（中）

（某當局者の談）

然れども是れ唯々過去の事のみ爾來日本の保護政治の下に右等の横暴なる役人は一掃せられたり此の一掃せられたる奸邪と其の恩波に浴したる徒輩は相率ゐて排日派となり或は言論に或は暴力に訴へて紛擾を釀すもの少からず其の地方に於て現今の官吏は韓人たると日本人たるとを問はず何れも民は國の本にして之を愛撫するを以て其の天職と爲し徹頭徹尾文明の法制に由りて國民の繁榮を增進するに努めたり其の中には固々心得違ひのものなきに非ずと雖も是れは天下の通弊にして韓國に限りたる事に非ず力を其の矯正に致すの外なかるべし斯くて外國宣教師は遲早善惡共に政治上に干與するの弊累を免かれ一意專心其の本務に盡瘁することゝなり教會を增設し病院を建て學校を興し之が爲めに各派合して每年二百萬圓近き大金を支出せりと云へば其の事業の盛況も推して知るべし而して此の傳道費は各派其の本國に於ける信徒の喜捨に係るものにして其の目的は一に韓民に對する布教に在るが故に宣教師にして政治上の事柄に容喙するはともも成さず本國信徒の依托に背く譯なり吾輩は宣教師が傳道事業に忙殺せられて政治問題に干與するの閑暇も意向もなき由を聞けり一層確實に言へば閑暇あるも最早其の必要なきに至りたるなり況んや「シーゼル」の物は「シーゼル」に返せよと云へる基督の教訓に悖るに於てをや吾輩の畏敬する宣教師の如きは確に超然として政治問題の外に特立するのみならず、出來べき丈け政府の方針と歩調を共にするを以て双方の便宜と認め自ら進んで韓國の學校令を遵守せんことを希望し現今之に由りて學部大臣の認可を受けたる宣教師所管學校は實に五百六十の多きに至れり亦以て機運の變遷を卜すべし、大凡そ宗教は神佛と耶蘇とを問はず其の本旨は衆を啓きて善に導し暴を戒めて順に歸せしむるに在りて宜しく良民を養成せんとする政府の方針と一致すべきものなり、故に政府は國家の安寧に妨害なき限りは布教上の便宜を計らんとこそすれ斷じて其の事業を沮碍すべき理由を有せざるなり

●**足立大佐出發期**　軍司令部高級副官より第二十八聯隊長に榮轉したる足立大佐は十五六日頃出發すべしといふ

●**呼子警視の移轉**　皇宮警察署長呼子警視は昌德宮東門通新築官舍に移轉

●**淺見技師の來京**　釜山水道事務所長內部技師淺見忠治氏は十二日來京す

▲治外法權▼

韓國銀行の重役連は役人か商人かとは同行創立以來の疑問であつた、而るに今度其疑問も解決して市原總裁は勅任待遇他の重役は奏任待遇とキマツたツーだ、之で韓國銀行も一の營利會社でなく記者の想像して居つた通り大韓國度支部銀行局と相成つた▲韓政府が韓銀重役を勅奏任待遇にしたのも實は東拓重役との均衡から來たのだツーだ、第一時代から[illegible]因つて平民主義で推通して來た市原君以下は韓政府の仕打を[illegible]と憤つて居るツーだ、之は[illegible]無理の無い話だ▲統監府員の大淘汰說が亦々傳はり始めた、而して淘汰した跡へ內地から新手の立派な人物を連れて來るのだツーだ、ツーだツーだ[illegible]ツリャ嘘だんべ今頃內地から朝鮮役人を志願して來る[illegible]があるかい▲韓國の現在の弊は上政治機關から下萬事が[illegible]なるにあるのだ、見玉へ一寸紙入をあけて一圓札三枚を出せばツレが[illegible]市の某寺では借財返濟基金を作るの[illegible]進淨新紙幣と云ふ圖子だ▲米國シカゴ[illegible]法として檢事の後家さんや妻君や娘が接吻を賣ることにしたツーだ、一接吻が一圓五十錢丸が後家さんので一圓一圓美人の妻君や娘やのは一圓大枚五圓だツーだ、皆さん一つ試しに出掛けてはドウだい。



拳骨（五）

桃睡

『また待なさい、奥さん迄が左六失人の靴を留まれては困る、で僕は少々要件もあつたもんですから今朝十時頃案山君を訪づれて往つたのです（ご免、ご免）と聲を掛けたが答がない（ご免、ご免）と三四度も續いて聲を掛けて見たが答の返事もないぢやありませんか、別に留守でもない樣子だから勝手に上つて見たんですね、然うでせう、夫人は六疊の室で手拭か何かで鉢巻をしてウン〳〵唸つて居るんです（怎うしたんですか）と枕元に座つて訊くと（些し頭痛がしまして）と顰を蹙めての返事です（然うですか、うりや可けませんね御要心なさい、併し案山君は）と訊くと、いゝり反對それ向きになつた、たゞ可笑な人だとは思つたが其の擧動に依て案山又しても遣つたわいと僕も始めて氣が注いたのです、で（又昨夜歸らなかつたのですか）と僕も夫人の顏が如何にも物憐れに感じたから氣の毒で慰める意で訊きました（はい此頃は毎晩此れな[illegible]

『誰が案山を連れ出した、た迄の事さ、僕が何も……』『ま、可いさ、處で兎や最中に（れ歸り―）と云ふ山も彼れぢや可かんね舍朝ッぱらから醉顏として[illegible]いて歸つて來たもんだ、飲んだのだらう』『うむ酔かね』『真實に呆れますわ、内[illegible]ど存じなしに……』『馬鹿何を云ふか』『だつて高山さんは可く[illegible]らよんすよ、一昨日の[illegible]さんから信用したんです[illegible]尾久十君の姪である。『然うか、然うか、[illegible]尾久十君の顏を見て流石[illegible]ンと參る。

狂亂菊牡丹（二）

▲伯爵家殿の[illegible]
▲知らぬは[illegible]

かくて兩者の戀仲は小櫻なは深草の濃紫現世は[illegible]契りはいよ〳〵深かりし[illegible]の花の色七色かはる其の[illegible]る頃ほいは花は庭面に[illegible]情は替らねど日は過ぎ[illegible]往く世と人の離[illegible]茲に可愛の若殿は[illegible]

日韓瓦斯の[illegible]

[illegible]

獨身の居室を許さず

[illegible]

結婚問題は燃ゆ上り今度[illegible]

[illegible]

伯爵芳川家へ

[illegible]

の令嬢かね子

[illegible]

牛狂亂

[illegible]

仁川評判た玉の怪腕

▲元警察生で鳴らした仲居

[illegible]た玉と呼ぶ美人あ[illegible]にて去る者ありと[illegible]て此の女の入方[illegible]られて國分鼻毛を數[illegible]と聞く是れも其の[illegible]くせる鼻下長の一[illegible]多野とけ云ふ雜貨屋[illegible]玉の容色がれ氣に召[illegible]れても玉と日も夜[illegible]しが遂には人の見る[illegible]りしがつい二三日前[illegible]去る月の事一手專有[illegible]の妾宅も花町は浪花[illegible]手に拂へ桐も變らず[illegible]花に何事ぞ見も知ら[illegible]向ひになりたるれ玉[illegible]腹の遣り場なしにか[illegible]何分れ安からぬ仲の[illegible]る一人の男右の樣子[illegible]り先き此の妾宅の裏[illegible]出るや否自動電話に[illegible]多野を呼び出し新樣[illegible]は聞いた波多野は驚[illegible]草で馳け來つて見れ[illegible]にてありしかば君か[illegible]て怪しきは電話で通[illegible]に向つて聞ひたゞせ[illegible]一點張りにて旦那の[illegible]を採み居れりさか何[illegible]筋の多き事故油斷も[illegible]事をあらく

披露と新婚

[illegible]鼈び今度新婚[illegible]待ちに待つたる者[illegible]の数々彼あ云よて[illegible]胸に畫かれし婚し[illegible]夜の[illegible]を許りに仰天し[illegible]めつさ許りに仰天し[illegible]とは憐れにも又無[illegible]

惨酷たらしい事

[illegible]寝物語

[illegible]する身には女手[illegible]になるを増して[illegible]し其外の只聞く[illegible]勝れし様樣と二世[illegible]は嘘も味樣に限り[illegible]想うれるいとは[illegible]たらしい事[illegible]む爲こし妻を[illegible]の口と我が身の[illegible]のさ東の空のみ打[illegible]日千秋店の仕事も[illegible]男心の際もあり[illegible]待つ甲斐もつて[illegible]として居たりしぞ[illegible]飛び立つ[illegible]

韓人警察署に駈込む

▲苦學生の成れの果

東京麹町麹町分署にては曾て韓國統監が歸京して國臣櫻田町の自邸に入りたれば同町より麹町邊に掛けて警戒をる〳〵怠りなかりし折柄青年の一韓人血相變へて同分署に駈込み來りたる樣子の只ならぬに深く仔細てそあるべけれと詰合の警官は丁寧に及ぶと自分は金瞬圭（十八）と申し日本名を金彌と稱し居る者にて嘗に韓東宮附金武官の保護に成城學校に入學したるも故ありて退學し目下西男爵の執事石河某氏の厄介になり幾度か奉公に赴きたるも其筋よりの特別の注意を拂はれて既が据らず近頃又澁谷邊の煮豆屋へ奉公に住込みたるも荷が重くして堪へ難く此上は最早死するの外なしとの哀訴に兎も角もと尚は其儘留置きありといふ

●戀の喜多八

井門本店を踊り

で背負つて立つほどでもなけれど兎角粹樣にはれ馴染み多い色黒拍子の喜多八が夫れ俠で通つた左り褄三筋の糸の世渡りも浮いた二上り三下り世辭で丸めて浮氣でこれて面白れ可笑く遣つては居たが稍々ともすれば近頃は帯に手を入れ夕暮れのちぎれ雲へと視線を投げて物な案ずる樣顔てそ不審至極と探つて見れば不憫や喜多八拍子とて狐れや柴喰ひ付やき紅の生身の緋に逸ひはなく知り拔いて居る丈けに甘い戀路は忘られず怎うやら或る蚊士とやらの男らしい所にしづ心なく茶絶ち鹽絶ちの御熱心に扨てそ新の始末とは罪深き蚊士の名こそ聞かまほし

●撲られて說諭

仁川港碇泊中

の穀物船乘組の船頭宗須明（四〇）と云ふは一昨日午後三時頃海岸通り斗量場にて米穀運搬の際糯米の合格米との區別を知らざりし爲め合格米の積場へ糯米を運搬なし居しかば是を見たる日人仲仕が制止したるも依然之を改めざるより氣早やの連中とて寄つて集つて袋叩きになしたるにぞ宗は其旨仁川署に訴へ出しが事情右と判明し且又多人數の事とて誰れが撲りし者すらも不分明の爲め遂に宗は叩かれ損の上說諭頂戴

●梅香女郎廢業

新町第一樓抱女郎神奈川產の櫻井はま（二五）事源氏名梅香は前借百圓を支拂ひて一昨日廢業す

●一昨日の新町

一昨十二日の新町遊廓揚り高は遊客九十七人に對して五百二十三圓十六錢の水揚なりしと

●岩本英夫氏消息

當地の法律家岩本英夫氏は親戚元田肇氏長男敏夫氏（千葉縣事務官）の結婚式に列席の爲め先きに上京し目下は京橋銀座一丁目元田法律事務所に滯在中なりと

●演藝●

●昨紙所報の如く旭町歌舞伎座に於ては愈々來る十七日初日として中村福圓一座開演に付き仕打の阪本は一座引纏めの爲め十三日釜山に向け出發したり▲壽座 伊東一派今十四日の替りは柳川春葉 脚色「女の鑒」全九場にして場割及配役左の如し

▲場割●（一）神井家庭園（二）神井家客間（三）神井家居間（四）駿河臺病院（五）上野山内（六）神井家後園（七）神井家臺所（八）戸塚水車小屋（九）神井家結婚式

▲役割● 神井護（泉）夫人林子（小泉三）室田重藏（横山）娘三枝子（寶井）護の子光一（高井）義野康吉（園宮）召使お舜（藤島）車夫千吉 芳川 老母たき喜多（北秋）大澤儀藏（小伊東）神井辰彌（小泉英）眞柄彦助（伊東）

尚本日よりは出孫枝數を除くの外一等三十錢二等二十錢（木戸、場代、下足料共）均一に勉强仕候

▲平民文庫▼

▲拜啓拙者等貴紙購讀者に有之候處繁榮會抽籤番號は何せ揭載無之候や御尋ね申上候（農商工部内永樂外二名）▲何かの間違ひなるべし八日の紙上に揭載してあります（係）▲日韓瓦斯會社の御陰を以て漸々安全なる點火をなすとになり居留地の體面上幾分美觀を呈したるは異に同慶の次第だが其の瓦斯管設備技手の不注意と瓦斯瀰浮の不完全にや一種異樣の臭氣室内に溜ち不快少なからず一般此の說盛んなれば今にして會社は大に注意して此の缺點を一日も早く皆除するにあらざれば會社の將來に向て多大の損害あるべきなり（本町一商人）▲菊牡丹は近來の艶種中一頭地を拔いたものである（ときを）▲京城繁榮會の一等と三等とは未だ判らんのですか串戲ぢやない（心配男）▲御心配御無用遣からず出るに相違ない併し貰つた人が何に此樣ものがと紙屑籠に採み込んだとすれば出る筈がないか然うなれば却つて民國や小學校やがれ惱を乘る譯だ何方にしても損はないこ知るべし（小僧）▲此の頃は官舍が方々へ出來たので家主連は青息吐息であるがこれは元來家主連が惡いのだ家賃を格外に貰つた報いと思へば自業自得だ（一●●●●淨瑠璃美郎）▲今年の樣に斯う溫かでは本年は饑饉であらう（百姓）▲東洋拓殖會社では新聞記者を招待して宴會を開く相だが何んの必要からであらうか思へば可笑しい次第で御座る（●●●野郎）▲中の新地が出來たので一般の飲食店は大弱りです（一店主）▲朝鮮の猫は多く白とか茶とかはなくて所謂雉子斑の奴が多い樣ですね（この花）▲太平町の太平湯では朝湯を初めた京城も開けたものだ（石井洞人）▲朝鮮の謝罪使が故伊藤公の墓前での慟哭演劇は拍手喝采の裡に終了した見物人の甘さ加減

●吉凶鏡

本町五丁目 三一館艸

可笑しくつて淚がこぼれる（日本人）

一月十四日月齡十二圓三、四綠友引 巳卯辨△一白 喜運たり大抵の事吉祥に兒女の爲に計る事大に良好△二黑 破れ易き日なり婚姻締結事業始め凶商法客横領防ぐべし△三碧 紛爭衝突防ぐべし其他平凡火氣に關する業務には用ひて大に吉△四綠 紛失盜失を防ぐ兼ねて酒色の害を愼しむべし曾假些少の快事を聞かん△五黃 小事常事差支なし大事新事凶據替方針變改無効有りべし情義のため損害煩累あらん△七赤 △六白 不利不遂の日なり新事見合す館舖滋滯多し取引賣買尤も愼しむべし旅行開店開業凶△八白 水池に歸し易し新事相談契約等畢竟面白からず負傷の恐れあり△九紫 顯榮の日とす大抵吉旅行創業開店等率先好し

●天氣豫報

（自十三日午後六時至十四日午後六時）

北東の風曇

十二日（華氏）最高温度 四一、七 最低温度 二八、九